

## 令和5年度事業計画

### 基本方針

令和5年度は当財団にとって記念館閉館という大きな節目の年であり、棟方志功画伯生誕120年の記念すべき年でもある。この生誕120年については、当記念館での特別展や全国3カ所（富山・青森・東京）を巡回する特別展など、関連イベントが各地で開催されるほか、二巡目となる棟方志功サミット（青森市、中野区、南砺市、杉並区、倉敷市の順で開催）が青森市で開催されるなど、全国的に棟方志功画伯が大きく取り上げられる一年となる。

当財団としては、記念館最後の年に開催する生誕120年記念特別展ほか、季節ごとの展示においても青森県民市民に御礼の意味を込め、ラストイヤーに相応しい展示内容とするものである。また、全国3カ所（富山・青森・東京）を巡回する特別展での展示作品は、当財団の所蔵作品が構成の半数近くを占めており、各会場での展示指導など積極的に協力するものである。

令和5年度をもって記念館は閉館となるが、閉館後も棟方志功顕彰事業は活動拠点を青森県立美術館に移したうえで、継続していくことを対外的に発信するとともに、閉館に係る具体の準備を関係機関と協議のうえ、進めていくものである。

### I 棟方志功顕彰事業

#### 1 記念館運営事業

##### (1) 作品展示

令和5年度の作品展示は例年どおり四期に分けて行い、その主な展示作品は次のとおりである。

##### ①春の展示「REMEMBER～雑華山房主人と鎌倉山～」

会期：令和5年3月21日(火)～6月18日(日)

棟方は1957年、富士山や相模湾を望む鎌倉市鎌倉山に「雑華山房」を構え、人気と評判の絶頂期から亡くなるまでのアトリエ兼住居としました。《花矢の柵》や《大世界の柵》といった公共施設を飾る巨大な板壁画も、雑華山房の広い芝生の庭に、使用する板木を全て並べ直接下絵を描くという方法で制作されました。こうした大作に挑む一方、同時期に還暦を迎え、病も経験したこともあり、これまでの自己を顧みつつ、自画像や自宅の風景といった自身の周辺を題材にした小品も多く描きました。春の展示では、棟方の雑華山房での日々を、そこで生み出した作品や、穏やかな日常の一場面を切り取った写真などを通して、追想します。

##### 【主な展示作品】

板画：花矢の柵、怒天神の柵、津軽三味線の柵、柏樹の柵、腰越の二人の柵など

倭画：青森頌春夏秋冬の図、雑華堂井戸碗像図、雑華山房石碑図など

油絵：太陽花シリーズ、腰越富嶽図など

## ②棟方志功生誕 120 年記念特別展「友情と信頼の障屏画<sup>しょうへいが</sup>」

会期：【前期】令和5年6月20日(火)～7月30日(日)

【後期】令和5年8月1日(火)～9月18日(月)

棟方志功は、生涯多くの友人・支援者に恵まれました。文学界の人々、民藝運動の仲間、実業家など、業種も居住地も様々で、経済的な支援、仕事の仲介等、多方面で支えられました。そんな人々との交友を物語るものとして、障屏画があります。壁画、屏風、襖など、建築内部という場所を限定する芸術である障屏画は、依頼主と、それに応える棟方との間に、深い絆があつてこそ生みだされたものです。画伯生誕 120 年にふさわしく、倉敷・大原邸を飾った屏風絵《御群鯉図》や、京都・山口邸の襖絵、板戸絵などの障屏画の大作を本県で初めて展示し、棟方の多彩な芸術活動に影響を及ぼした友人・支援者との広い交友関係をご紹介します。

### 【主な展示作品】

板画：炫火頌、モウッコの面の柵など

倭画：御群鯉図、乾坤無妙、大樹図、御鷹々々図、御三尊像図、鷺栖図など

その他：女人図（愚朗茶碗）、鯉魚図など

## ③秋の展示「安於母利妃<sup>あおもりひ</sup>」

会期：令和5年9月20日(水)～12月17日(日)

棟方志功といえば思い浮かべる人も多い円窓大首絵の一つ《門世の柵》。門世とは、画面の四隅に置いた東西南北の文字が世界へ開ける門だという棟方の造語です。「裸体の、マツパダカの顔の額の上に丸い星をつければ、もう立派な佛様になって仕舞うんだから、ありがたく、忝けないんですね」（『板画の肌』1956）棟方は自身の描く女人像についてこう話しますが、額に星のある他の女人と比べどこか母のような包容力を感じさせるこの作品は、別名を《安於母利妃の柵》とといいます。棟方の女人礼讃の原点には、貧しい暮らしの中 15 人の子どもたちを生み育てた故郷青森の母の姿がありました。秋の展示では、愛(かな)しい母から受けた慈愛から広がる女人像を、棟方を育んだ青森の雄大な自然も交えて展覧いたします。

### 【主な展示作品】

板画：湧然する女者達々、鍵板画柵、門世の柵、あかえくぼの柵など

倭画：双妃の図、春夏秋冬図、胡須母寿花頌など

油絵：黄昏に寄る子供たち、夫婦像図など

#### ④冬の展示「<sup>ばんごくどう</sup>板極道」

会期：令和5年12月19日(火)～令和6年3月31日(日)

画家を目指して上京してから2年後に初めて版画を彫り、約半世紀にわたり作品に念願をかけて柵を打ち続けた棟方志功。自伝『板極道』の中で、武者小路実篤の「この道より我を生かす道なし、この道を歩く」ということばを、自身の版画の道として進む心のことばにしたと語ります。作品の大きさ、複数性、彩色方法などで版画界の常識を打ち破り版画の地位向上のため奔走した棟方ですが、本業で奮闘するからこそ倭画、油絵、書など他の制作も楽しみ、1975年に亡くなるまで生涯筆を握りました。ドキュメンタリー映画「彫る 棟方志功の世界」は最後、棟方の豪放な言葉で締めくくられます。「終わりもはじまりもないですよ。世の中。大丈夫！永劫だ！」版画の道を極めんとした棟方の生涯の芸業をご覧ください。

##### 【主な展示作品】

版画：萬朶譜、華巖譜、流離抄、柳緑花紅頌、不盡の柵など

倭画：アメリカ旅行のスケッチ、フヂヤのオンチャのネプタ図、達磨図など

油絵：初冬風景図、伊豆・大島シリーズなど

#### (2) 開館及び休館

令和5年度の開館日数は330日とし、9月13日（棟方志功画伯命日）と11月3日（文化の日）は無料開館日とする。

また、休館日は毎週月曜日（祝日及びねぶた期間中を除く）及び12月29日から1月1日としているが、県内外から多数の来館者が予想される8月は無休とし、JR大人の休日倶楽部パス実施期間は可能な限り開館する。

なお、年間の開館・休館日は別紙一覧表のとおりとする。

別紙

令和5年度開館日一覧表

																															… 土日祝休	
4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	休
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	休
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	休
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29			
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	

◆展示カレンダー

・ 春の展示	REMEMBER～雑華山房主人と鎌倉山～	3月21日(火・祝)～	6月18日(日)
・ 生誕120年記念特別展	友情と信頼の障屏画	6月20日(火)	～ 9月18日(月・祝)
・ 秋の展示	安於母利妃	9月20日(水)	～12月17日(日)
・ 冬の展示	板極道	12月19日(火)	～令和6年3月31日(日)

◆無料開館日

9月13日(棟方志功画伯命日)、11月3日(文化の日)

◆その他

大人の休日倶楽部

2023年6月22日～7月4日、11月30日～12月12日、2024年1月18日～1月30日

## 2 作品保存普及事業

### (1) 作品貸出

令和5年度は次のとおり作品貸出を行い広く棟方芸術の普及を図るものである。

#### ①「生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」への貸出

富山会場：富山県美術館 令和5年3月18日(土)～5月21日(日)

青森会場：青森県立美術館 令和5年7月29日(土)～9月24日(日)

東京会場：東京国立近代美術館 令和5年10月6日(金)～12月3日(日)

主 催：富山会場＝富山県、棟方志功展実行委員会（富山県美術館、北日本新聞社）、NHK富山放送局、NHKエンタープライズ中部  
青森会場＝生誕120年棟方志功展青森実行委員会（青森県立美術館、棟方志功記念館、NHK青森放送局、NHKエンタープライズ東北、青森県観光国際交流機構）  
東京会場＝東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞

貸出作品：善知鳥版画巻、華巖譜、華狩頌など47作品、版木など資料7点  
三会場での巡回展となり、富山・東京会場が特別協力となる。

#### ②一般財団法人青森市文化観光振興財団主催「棟方志功賞版画展」への貸出(予定)

会期及び会場：2月上旬 青森市民美術展示館

青森市文化観光振興財団が主催する「棟方志功賞版画展」は小・中学生、高校生を対象とした版画作品の公募展であるが、当記念館では主催者からの依頼によって参考出品として棟方志功の版画作品を例年出品しており、令和5年度で36回目となる。

作品貸出料については、棟方志功画伯の偉業をたたえ青森市の版画芸術の振興と青少年の創造性の向上を図るための事業であることから免除している。

#### ③青森県立美術館内「棟方志功展示室」での作品展示

当記念館では、青森県立美術館運営支援事業委託契約に基づき、美術館内の「棟方志功展示室」の展示業務を行っている。作品展示は概ね年間4回展示替えしており、展示テーマによっては美術館の所蔵作品だけではなく、当記念館の所蔵作品も展示するが、それらの展示作品は無償で提供、展示している。

### (2) 作品受贈

全国に散在する棟方作品のコレクターに対し、引き続きホームページ等により当記念館への寄贈について広くPRするとともに、必要に応じて訪問調査、作品鑑定のうえ棟方作品の収集に務めるものである。

### (3) 作品修復

収蔵作品の劣化状況を調査のうえ順次計画的な修復作業を専門家に依頼し、作品の保存に務めるものである。

### (4) 賛助会員募集

当法人の設立目的に賛同し、協力してくれる個人または団体を広く募り、その会費を当法人の運営事業活動に充てるものである。

### (5) アメリカ合衆国メイン州との版画交流

当記念館を窓口として実施されてきたメイン州との版画交流。令和5年度はこれまで同様、青森市民文化祭での展示作品をはじめ、小学生の版画交流に係る作品の受け入れ及びメイン州での展示作品の発送に係る連絡業務、費用の一部負担等、当記念館としても継続的な活動に協力するものである。

## II 青森県立美術館連携事業

青森県立美術館の開館にあたり、平成18年度から「事業連携等に関する協定」を締結のうえ、所蔵作品の相互貸与及び棟方志功に係る展覧会の実施による棟方志功画伯の顕彰を強化するとともに、長年の美術館支援及び記念館運営のノウハウを活かした県立美術館の円滑な運営に寄与するために行う県立美術館業務を受託してきた。

令和5年度も引き続き同館との連携事業を推進することにより、青森県の芸術振興に寄与するものである。

### 1 運営支援事業

- (1) 棟方志功画伯に係る研究及び作品展示に係る学芸業務
- (2) 観覧料の徴収
- (3) 受付・案内及び展示に係る監視等の管理指導  
キッズルームの管理に関する業務
- (4) 情報発信
- (5) その他事業連携等に関する協定に基づく運営業務

### 2 受付監視事業

- (1) エントランス総合案内、発券機による観覧券の販売、展示等の案内、電話での団体受付及び問い合わせ対応
- (2) 作品及び観覧者の監視
- (3) 図書室内でのレファレンス等対応
- (4) キッズルームでの監視、秩序の維持
- (5) 来館者への便宜の供与及び安全確保

### Ⅲ 物品販売事業

棟方作品をより身近に感じていただくため、また当記念館での観覧記念として、棟方作品の複製品を販売している。この複製品は当記念館が企画、製作、仕入している複製品と他社が製作し、当記念館での販売を委託されている受託品に大別されている。

令和5年度は富山、青森、東京を巡回する「生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」の各会場でのグッズ販売をはじめ、新たに販売を委託した町田市立国際版画美術館や東京都国立近代美術館内ミュージアムショップでの販売のほか、棟方にゆかりのある美術館への新規委託販路の拡大など、記念館閉館後も恒常的な財源の確保に繋がるよう増収を図るものである。

# 収支予算書(正味財産増減計算書ベース)

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,988,000	1,000	2,987,000
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
基本財産収入貸貸料	2,987,000	0	2,987,000
特定資産運用益	1,000	1,000	0
特定資産収入利息	1,000	1,000	0
受取会費	1,619,000	1,618,000	1,000
賛助会員受取会費	1,619,000	1,618,000	1,000
事業収益	103,426,000	82,617,000	20,809,000
記念館運営事業収益	6,697,000	8,481,000	△ 1,784,000
運営支援事業収益	16,580,000	16,580,000	0
受付監視等事業収益	72,090,000	49,885,000	22,205,000
物品売払収益	7,427,000	7,048,000	379,000
受託品販売受取手数料	632,000	623,000	9,000
受取補助金等	7,000,000	12,730,000	△ 5,730,000
青森県補助金収益	7,000,000	7,000,000	0
雇用調整助成金	0	5,730,000	△ 5,730,000
受取寄付金	0	300,000	△ 300,000
受取寄付金	0	300,000	△ 300,000
<b>経常収益計</b>	<b>115,034,000</b>	<b>97,267,000</b>	<b>17,767,000</b>
(2) 経常費用			
事業費	134,810,000	119,687,000	15,123,000
役員報酬	2,441,000	2,454,000	△ 13,000
給料手当	11,263,000	12,053,000	△ 790,000
臨時雇賃金	72,450,000	55,665,000	16,785,000
退職給付費用	4,487,000	781,000	3,706,000
福利厚生費	6,892,000	6,143,000	749,000
旅費交通費	231,000	94,000	137,000
通信運搬費	4,469,000	2,053,000	2,416,000
減価償却費	3,600,000	3,600,000	0
消耗什器備品費	0	310,000	△ 310,000
消耗品費	1,427,000	1,587,000	△ 160,000
修繕費	300,000	594,000	△ 294,000
印刷製本費	799,000	780,000	19,000
燃料費	2,186,000	2,858,000	△ 672,000
光熱水費	3,619,000	4,064,000	△ 445,000
賃借料	1,418,000	1,707,000	△ 289,000
保険料	762,000	722,000	40,000
諸謝金	40,000	40,000	0
報償費	60,000	60,000	0
物品仕入	2,331,000	6,566,000	△ 4,235,000
租税公課	6,802,000	9,871,000	△ 3,069,000
広告料	45,000	45,000	0
委託費	8,787,000	7,299,000	1,488,000
雑費	401,000	341,000	60,000
管理費	2,145,000	2,541,000	△ 396,000
役員報酬	200,000	255,000	△ 55,000
給料手当	139,000	147,000	△ 8,000
福利厚生費	20,000	20,000	0
会議費	213,000	208,000	5,000
旅費交通費	442,000	449,000	△ 7,000
通信運搬費	214,000	214,000	0
交際費	100,000	300,000	△ 200,000
消耗品費	185,000	185,000	0
印刷製本費	135,000	203,000	△ 68,000
報償費	194,000	210,000	△ 16,000
租税公課	30,000	77,000	△ 47,000
支払負担金	55,000	55,000	0
委託費	148,000	148,000	0
雑費	70,000	70,000	0
<b>経常費用計</b>	<b>136,955,000</b>	<b>122,228,000</b>	<b>14,727,000</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 21,921,000</b>	<b>△ 24,961,000</b>	<b>3,040,000</b>
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>△ 21,921,000</b>	<b>△ 24,961,000</b>	<b>3,040,000</b>
一般正味財産期首残高	1,599,005,990	1,623,966,990	△ 24,961,000
一般正味財産期末残高	1,577,084,990	1,599,005,990	△ 21,921,000
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>1,577,084,990</b>	<b>1,599,005,990</b>	<b>△ 21,921,000</b>

(注) 正味財産期首残高は、前年度決算確定により、当該決算に基づく正味財産期末残高の金額に置き換わるものとする。